

令和4年度 岡本小学校 学校評価書

1 教育目標(目指す児童像含む)

(1)基本目標

人間尊重の精神に基づき、一人一人の特性や能力を生かし、他者と協働できる、知・徳・体の調和のとれた児童を育成する。

(2)具体目標

自ら考え主体的に行動し、心豊かでたくましい児童の育成

○かしこく(進んで学ぶ子)○やさしく(思いやりのある子)○たくましく(元気でがんばる子)

2 学校経営の理念(目指す学校像含む)

常に児童を中心に据え、児童の視点に立ち、すべての児童に夢とやる気と自信を育む教育を実践する。そのために、家庭や地域と連携・協力し、以下の学校となることを目指す。

- ・児童一人一人の個性や能力を生かす活力あふれる学校
- ・思いやりの心を持ち温かみと潤いのある学校
- ・保護者・地域に開かれた信頼される学校

3 学校経営の方針(中期的視点) ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1)児童一人一人の状況に応じて、基礎・基本を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力を育成するため、教材や1人1台端末等のICTを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。
- (2)児童一人一人の自信や自己有用感を高め、自分のよさを生かしながら、他と協働する力を育成するため、学級経営の充実と認め励ます指導の一層の充実に努める。
- (3)児童一人一人が自分の状況に合わせて、体力を養い健康を管理しながら、危険を予測し回避する力を育成するため、体力向上・安全教育の充実に努める。
- (4)教職員が高い指導力と専門性を身に付け、使命と責務を自覚し、同僚性を発揮してチームで協力し合いながら勤務できるよう、教職員の資質向上とより良い職場環境の改善に努める。
- (5)家庭や地域とつながりを深めながら教育活動を展開するために、魅力ある学校づくり地域協議会との連携と小中一貫教育・地域学校園の取組の推進に努める。

[河内地域学校園教育ビジョン]

すこやか河内 ～小中一貫教育を通して、子供たちの心身のすこやかな成長を目指します～

4 教育課程編成の方針

社会の変化やSDGs等に係る現代的な諸課題に対応するため、生涯にわたって成長し続ける基盤となる知・徳・体の調和のとれた力を、児童の発達段階や特性、地域の教育環境、保護者や地域の願いなどを踏まえつつ、教科等横断的な視点で各教科等との関連を図りながら育成する。(◇は留意点)

- ◇ 児童会活動や学級活動の時間を確保し、児童の主体性を育む取組を更に充実させるため、週に2日「岡小タイム(ロング昼休み)」が実施できる日課とする。
- ◇ 言語能力を高め、確かな学力を身に付けさせるために、第1学年に、多層指導モデルMIMを導入した授業を位置付ける。
- ◇ GIGAスクール構想の実現を目指し、1人1台端末を活用した学習活動を充実させるとともに、プログラミングを体験しながら論理的思考力を身に付けさせるための学習活動を計画的に実施する。
- ◇ 認め合い・励まし合い・協力し合える豊かな人間関係を、縦割り班活動や体験活動、学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践等を通して構築するとともに、心のたくましさを涵養する。
- ◇ 魅力ある学校づくり地域協議会の意見や、学校マネジメントシステムによる教育活動の反省を、次年度の学校運営に生かす。

5 今年度の重点目標(短期的視点)※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

児童一人一人の状況に応じて、基礎・基本を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力を育成するため、教材や1人1台端末等のICTを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。

【学 習 指 導】

○児童の学力の状況を把握し、個に応じた指導や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善等により、基礎・基本を確実に習得させ、言語能力の向上に努めるとともに、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。併せて、1人1台端末を活用しながら家庭学習の習慣化に努める。

【児 童 指 導】

○認め励ます指導により自信や自己有用感を高め、道徳科(道徳の時間)や体験活動・読書活動の充実、家庭・地域と連携した挨拶や適切な言葉遣いの励行等を通して、きまりやマナーを遵守する態度を育成し、生命や人権を尊重する思いやりの心を育み、いじめや不登校を生まない環境を作るとともに、折れない心や、やり抜く心など、心のたくましさの涵養に努める。

【健康(体力・保健・食・安全)】

運動量の確保やICTの活用などによる授業の充実に努め、運動の日常化を推進するとともに、感染症予防や健康な生活習慣、望ましい食習慣に対する理解を深め、改善することができるよう家庭との連携を図る。併せて、安全に関する理解を深め、危険を予測し回避するなど、自らの命を守り抜くための行動力を身に付けられるよう警察等の関係機関とも連携し、指導の充実に努める。

6 自己評価(評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 →児童肯定的回答 80%以上	①協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。全員で授業を公開し合い、より良い授業を目指して協議を行う。 ②様々な方法や観点からの評価により、一人一人の定着度を把握し、個に応じた指導を行う。 ③理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導するとともに、生活、学習の両面で、教師が言葉の意味や使い方を問いかけたり、説明したりする場面を多くし、児童の語彙力の拡充に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 93.7%で目標値を上回った。 ①学校課題の解決に向けて協働体制で取り組んだ。授業の流れを共通理解し、めあてや振り返りの時間を取った。 ②教師の見取りや自己評価、ノートの確認、小テストなどから形成的評価を行い、一人一人の定着度の把握に努めた。また、学習の成果に対して賞賛したり、児童の実態に応じた課題を与えたりするなどの支援を行った。 ③形態を工夫しながら話し合い活動を設定し、理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導した。 【次年度の方針】 ・協働体制による研究を進め、授業力の向上を図る。全員で授業を公開し合い、より良い授業を目指して協議を行う。 ・様々な方法や観点からの評価により、一人一人の定着度を把握し、個に応じた指導を行う。 ・理由などを含めて発表できるよう、発達の段階に応じて指導するとともに、生活、学習の両面で、教師が言葉の意味や使い方を問いかけたり、説明したりする場面を多くし、児童の語彙力の拡充に努める。
	A2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 →児童肯定的回答 90%以上	①道徳科において、考え議論する授業展開を図るとともに、学年学級を越えて人とかかわりを深め、相手を思いやり、相手の立場を考え生活できるよう指導の充実に努める。 ②学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答は 96.2%で、目標値を上回った。 ①考え議論する道徳科の授業を要として道徳教育を行い、各活動において一人一人が自らの成長を振り返ることができるようにした。 ②縦割り班活動を中心に異年齢交流に取り組んだ。 ③児童指導情報交換会などを通して、学校全体で児童の様子について共通理解を図り、教職員がそれぞれの立場から一人一人の児童に深く関わり、機会をとらえて指導することができた。 ④学級図書の実践など、学校図書館を核とした読書活動を推進した。

		【次年度の方針】 ○考え議論する道徳科の授業を要として道徳教育を行い、学年学級を越えて人との関わりを深め、相手を思いやり、相手の立場を考え生活できるよう指導の充実に努める。 ○学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。
A3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート「きまりやマナーを守って生活している」 →児童肯定的回答 85%以上	①集団と個の両面から一人一人の児童の特性を適切に把握し、ふれあいとルールを大切に学級づくりに努める。 ②「岡本小学校の生活のきまり」「すこやか河内学校園のきまり」の指導の充実にともに、毎月の児童指導の重点の実践に取り組む。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 91.6%で、目標値を上回った。 ①学級活動や道徳の時間を活用し、児童のよいところを認めながら、ふれあいとルールを大切に学級づくりに努めた。 ②「岡本小学校の生活のきまり」「すこやか河内学校園のきまり」を各教室に掲示し意識させるとともに、月ごとの児童指導の重点をもとに各学級で取り組んだ。 B 【次年度の方針】 ・一人一人の児童の特性を適切に把握し、集団と個の両面からアプローチした、ふれあいとルールを大切に学級づくりに努める。 ○「岡本小学校の生活のきまり」「すこやか河内学校園のきまり」の指導の充実にともに、毎月の児童指導の重点の実践に取り組む。
A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート「時と場に応じたあいさつをしている」 →保護者肯定的回答 80%以上	○新しい生活様式に対応したあいさつ運動の実施方法を検討し、学級活動等における指導を通して、あいさつの定着及び適切な態度の習慣化に努める。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 84.1%で目標値を上回った。 ①新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえであいさつ運動を実施し、学校全体で一丸となって取り組むことで定着を促進した。 ②学級活動や道徳の時間を中心に、あいさつの大切さや適切な態度が習慣化できるよう指導した。 B 【次年度の方針】 ○登下校のあいさつのみならず、「ありがとうございます・失礼します・すみません」といった礼儀が身につくよう学校全体で共通理解を図り、時と場に応じたあいさつの定着及び適切な態度が習慣化できるように取り組む。
A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 →児童肯定的回答 80%以上	○日々の教育活動において、目標の達成に向けた学習過程を重視した指導に努めるとともに、児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進する。（「児童会活動」「きらきらさん」「宮っ子心の教育表彰」等）	【達成状況】 児童の肯定的回答は 91.3%で目標値を上回った。 ①児童集会や、日頃の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めることにより、粘り強く取り組む姿勢が育った。 ②「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進した。 B 【次年度の方針】 ・学校行事や日々の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めるとともに、AIDリルなどの教育機器を活用して児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進する。
A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート「健康や安全に気を付けて生活している」 →児童肯定的回答 85%以上	① 業間や昼休みは外に出て遊ぶことを推奨するとともに、各学年の実態に応じた目標を設定するなど、進んで運動する機会の充実と運動への動機付けを図る。また、元気っ子健康体力チェックやミニマムの結果を分析し、体育の授業の中に児童の実態に合った運動を位置付ける。 ②健康の保持増進が図られるよう、毎日の指導に取り組むとともに、保健だよりや食育だより等により啓発し、家庭との連携を図る。 ③避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施して、体験活動を通じた安全教育を推進する。 ④感染症予防を始め、児童の健康と安全についての工夫改善を図る。	【達成状況】 児童肯定割合は 96.2%であり、目標値を上回った。 ①体育科でのサーキット運動に全校体制で取り組ませたり、なかよし班での共遊やクラス遊び等を奨励したりしたことにより、児童が積極的に運動に親しむ姿が見られた。 ②今年度から歯磨きを再開し、歯磨き CD を活用するなど児童の虫歯予防に対する意識を高めることができた。また、歯科検診の結果やその後の処置の様子をもとに夏休み前の歯みがきカレンダーを個別に配付することで、齲歯の予防・治療等の意識が高まった。 B ③火災や竜巻を想定した避難訓練を実施し、事後の振り返りを確実にし、児童の安全に対する意識を高めることができた。 ④共有物や特別教室を使用する際の消毒などを継続して行い、児童の感染症予防に努めた。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を引き続き継続していく。さらに、児童への安全面の意識が高まるよう学校全体で共通理解を図りながら指導していきたい。

A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】全体アンケート「夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」→児童肯定的回答 80%以上	○集団や地域のために働く機会を設定するとともに、校外学習や出前授業等により、働くことの大切さや喜びを実感させるキャリア教育を推進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 91.3%で目標値を上回った。 ①児童集会や、日頃の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めることにより、粘り強く取り組む姿勢が育った。 ②「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進した。 ③感染症対策を講じながら、校外学習や出前授業を実施し、キャリア教育を推進した。 【次年度の方針】 ・学校行事や日々の教育活動において、目標を達成する学習過程を重視した指導に努めるとともに、AIドリルなどの教育機器を活用して児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進する。
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】全体アンケート「外国語活動の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」→児童肯定的回答 80%以上	①教員が英語を使うとともにALTを活用し、英語のやり取りを中心とした授業を展開する。 ②ALTとの交流活動など、学校生活の中で英語を使う機会を設ける。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、94.8%で、目標値を大きく上回った。 ①②ALT と随時打ち合わせを行い、ALT とのやり取りの中で、身に付けるべきキーセンテンスに慣れ親しませることができた。 【次年度の方針】 ・今後も外国語や外国語活動の時間はもとより、休み時間や清掃の時間など、日常的に生きた英語に触れる機会を充実させることにより、英語によるコミュニケーションの楽しさを味わわせるとともに、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度の育成に努める。
A9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】全体アンケート「宇都宮の良さを知っている」→児童肯定的回答 80%以上	①生活科や社会科、総合的な学習の時間において、岡本地区や宇都宮市を教材にした学習を展開する。また、市作成教材を活用し、さらに宇都宮市のよさを実感できるよう校外学習や体験学習を積極的に取り入れるなどして授業を展開する。 ② 地域の情報を収集し、学校だよりに掲載することにより、児童や保護者が地域の良さを実感できるよう努めるとともに、児童や保護者の地域活動への参加を促進する。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 85.3%で目標値を上回った。 ①②各教科等を通して、岡本地区や宇都宮市を教材にした学習を展開することができ、校外学習も積極的に取り入れた。 【次年度の方針】 ・市作成教材を活用し、体験活動等も取り入れながら、さらに宇都宮市の良さを実感できるよう授業を展開するとともに、宇都宮学での取組の様子を、各種便り等で発信することにより、保護者にも、宇都宮市の良さが伝わるよう努める。
A10 児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】全体アンケート「パソコンや図書等を学習に活用している」→児童肯定的回答 80%以上	①情報教育担当や司書が学級担任と連携し、コンピュータ及び、1人1台端末、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ②読み聞かせの実施や図書だよりによる啓発などにより学校図書館を核とした読書活動を推進する。 ③ICTや図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。さらに1人1台端末の導入を機に、その特性を各教科等の学習に生かす。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、89.5%で目標値を大きく上回った。 ①1人1台端末の活用は全学年積極的に取り組めた。また、巡回図書の活用もできた。 ②図書便りや図書委員会の動画を利用した本の紹介など、イベント等を通し、子供たちの読書意欲を高めるように計画的な啓発を行った。 ③各学年の実態に応じ、日常的に有効活用することができた。また、ICT機器に偏ることなく、図書資料も意図的に取り入れた。 【次年度の方針】 ・ICTや図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。1人1台端末を効果的に活用したり、図書資料を適切に選択して提示したりするなど、各教科等の学習に生かせるようにする。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」→児童肯定的回答 90%以上	①新しい生活様式のもと、地域の高齢者との交流などにより、地域の人とのかかわりを深め、相手を思いやり、時と場に応じた言葉遣いができるよう指導の充実に努める。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 96.2%で、目標値を上回った。 ①道徳科では、考え議論する授業の展開を図り、ノートを活用して一人一人が自らの成長を振り返ることができるようにした。 ②縦割り班活動を中心に異年齢交流に取り組んだ。 ③児童指導情報交換会などを通して、学校全体で児童の様子について共通理解を図り、教職員がそれぞれの立場から一人一人の児童に深く関わり機会をとらえて指導することができた。 ④学級図書の充実など、学校図書館を核とした読書活動を推進した。

			【次年度の方針】 ○道徳科において、考え議論する授業展開を図るとともに、学年学級を越えて人とかかわりを深め、相手を思いやり、相手の立場を考え生活できるよう指導の充実に努める。 ○生活科や総合的な学習の時間において、高齢者と交流したり福祉について調べ体験したりすることで、感謝やいたわりの心をもてるようにする。 ○学校図書館を核とした読書活動の推進により、豊かな心の育成に努める。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート「環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている」 →児童肯定的回答 80%以上	①学校農園活動や花いっぱい運動など、自然の大切さを実感できる教育活動に取り組む。 ②避難訓練や交通安全教室等を計画的に実施するなど体験活動を通じた安全教育を推進する。また様々な災害における避難方法等詳細について保護者への周知・連携を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、92.7%で、目標値を上回った。 ①生活科での農園活動や花いっぱい活動など、環境に目を向けた活動を取り入れた。また、総合的な学習から委員会活動に発展し、校内放送や掲示物、イベントを通してSDGsの啓発を行った。 ②各避難訓練や交通安全教室等の体験活動も十分実施した。 【次年度の方針】 ・今後も活動の内容や方法の工夫を継続し、学校内外の環境維持や安全を意識させる活動を実施する。
	A13 教職員は特別な支援を必要とする児童の実態に応じて適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 →教職員肯定的回答 80%以上	①教育支援委員会及び児童に関する情報交換会等により、特別な支援を必要とする児童や保護者についての情報共有を図る。 ②教育支援委員会及びケース会議により、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策を組織的に検討し、一人一人のニーズに応じた指導の充実に努める。また、必要に応じて外部機関との連携を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、95.7%で目標値を大きく上回った。 ①②組織的な対応により、個別での支援が必要な児童には、別室で対応するなど、個に応じた指導に努めるとともに保護者との情報共有に努めた。 【次年度の方針】 ・次年度もきめ細やかな指導を行い、一人一人に応じた教育を充実させていく。
目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」 →保護者肯定的回答 80%以上	①いじめに関するアンケートや教育相談、いじめゼロ集会を実施し、普段から安心して相談できる教職員と児童との関係づくりに努め、早期発見・対応を図る。 ②道徳科の授業公開や人権週間の設定、いじめゼロ強調月間による啓発などにより、児童にいじめを許さない心情を育てる。 ③児童の情報交換会を通して、情報を共有し、いじめを生まない全校体制を構築する。	【達成状況】 保護者の肯定的回答は 84.7%で目標値を上回った。 ①いじめに関するアンケートと教育相談を実施し、細かな実態把握に基づく具体的な対応や未然防止に努めた。 ②いじめゼロ強調月間におけるデータ配信によるいじめゼロ集会の実施や道徳科との連携によりいじめを許さない意識が高まった。 ③ロング昼休みの学級での共遊等の時間に積極的に児童との交流を図ることによって、児童との親密な関係を築き、いじめの早期発見・対応につなげることができた。 【次年度の方針】 ○教職員自らが人権感覚を高めるとともに、児童が安心して相談できる関係づくりに努め、早期発見・対応を図る。また、様々な啓発及び指導などにより、児童にいじめを許さない心情を育てる。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート「先生方は、一人一人を大切に、児童(生徒)がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 →児童の肯定的回答 85%以上	①学習指導や特別活動をととして自己肯定感を高める取り組みを継続して行い、児童のよさをいかす教育環境を整え、不登校を未然に防止する。 ②「きらきらさん表彰」や「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童のよさや努力などを認め励ます教育を推進する。 ③SCM及び不登校対策担当を核として組織的に支援策を検討し、保護者との連携や別室登校支援などに取り組む。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 97.9%で目標値を大きく上回った。 ①学習指導や特別活動を通じた自己肯定感を高める取り組みや、児童のよさを生かす教育環境を整え、不登校を未然に防げるように努めた。 ②「きらきらさん表彰」「宮っ子心の教育表彰」等を活用し、児童のよさや努力等を認め励ます教育を推進した。 ③児童支援委員会などで組織的に支援策を検討し保護者との連携や別室登校支援に取り組むことができた。 【次年度の方針】 ・児童のよさや努力などを認め励ます教育の推進による自己肯定感を高める取り組みを継続して行い、児童のよさを生かす教育環境を整え、不登校の未然防止に努める。 ・1人1台端末などの教育機器を活用して保護者との連携や別室登校支援などに取り組む。

A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート「特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」→教職員肯定的回答 80%以上	①教育支援委員会及び児童に関する情報交換会等により、特別な支援を必要とする児童や保護者の情報について共有を図り、通訳者派遣や翻訳文書の配付など行政支援を要望する。 ②教育支援委員会及びケース会議により、学級やかがやきルームでの指導方針・具体策組織的に検討し、一人一人のニーズに応じた指導に努める。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は、95.7%で目標値を大きく上回った。 ①②組織的な対応により、個に応じた指導に努めるとともに保護者との情報共有に取り組んだ。 【次年度の方針】 ・次年度もきめ細やかな指導を行い、一人一人に応じた教育を充実させていく。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート「私は今の学校が好きです」→児童の肯定的回答 90%以上	①体験的な活動を取り入れたり、教育機器等を有効に活用したりして、児童の学習意欲を高める授業の工夫をする。 ②特別活動に児童が自主的・主体的に取り組む場面を設定し、教師が適切な指導・支援・助言をする。	【達成状況】 児童の肯定的回答は 94.8%で、目標値を上回った。 ①教育機器やデジタル教科書などを活用したり、積極的に体験的な活動を取り入れたりして、児童が興味・関心をもって取り組むことができる授業の展開に努めた。 ②教育活動ごとに、児童が具体的な自分のめあてを明確にして自主的に取り組めるよう、計画段階から適切な指導、支援がなされるように立案し、全教職員の共通理解に基づいて実施した。 【次年度の方針】 ・今後も継続して、体験的な活動や効果的な教育機器の活用に取り組み、児童の学習意欲を高めていく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート「教職員は分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導をしている」→教職員肯定的回答 90%以上	①学力の向上等を目指し、教材研究を十分に行い、明確な課題提示と、振り返りや発問の工夫、学び合い活動の充実等により、分かる授業の展開に努める。 ②児童の実態に応じたきめ細かな指導をするために、単元や学習内容に応じて様々な学習方法及び形態の工夫をする。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 100%で目標値を大きく上回った。 ①学年ブロックで連携してICT機器を活用したり、よりよい授業が展開できるよう教材研究に努めたりした。 ②児童の実態把握に基づき、教科の特性に応じて少人数指導や習熟度別学習、T、Tによる指導を取り入れた。また、かがやきルーム指導員と連携しながら個に応じた指導ができた。 【次年度の方針】 ・教材研究や授業準備がより効率的・効果的に行えるよう計画・実施するとともに、少人数指導や習熟度別学習、T.Tによる指導を適宜取り入れ、学力向上を図る。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」→教職員肯定的回答 80%以上	①様々な学校行事のみならず、日頃の教育活動全般において、教職員と関係する学校スタッフが事前の打合せも含めて協働の意識で業務にあたる。	【達成状況】 教職員の肯定的回答は 95.7%と、目標値を大きく上回った。 ①教育活動全般において「報告・連絡・相談」を密にし、協働の意識を高めることで円滑に業務を遂行できた。 【次年度の方針】 今年度の取組を継続する。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】出勤記録 12月までの全教職員残業時間の平均→月 35 時間未満	①各種行事や計画の見直しや精選をしたり、課題と成果を明らかにしたりして、業務改善を促進させるようカリキュラムマネジメントを行う。 ②ミライムやポータルなどをより活用したペーパーレス化や効率化の推進について共通理解を図り、事務等の一層の効率化に努める。	【達成状況】 12月までの全教職員残業時間平均が、月 29 時間 22 分であり、目標を達成した。 ①行事の精選に取り組む、業務量のスリム化につながった。 ②ミライムやポータルサイト、さくら連絡網を積極的に活用することにより、業務の効率化につながった。 【次年度の方針】 ・今年度の取組を継続する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、小学校と中学校が連携した小中一貫教育・地域学校園の取組を行っている」→保護者肯定的回答 85%以上	①地域学校園研修や各部会・教科部会等を定期的実施し、計画的に推進する。 ②「小中一貫教育だより」や「学校だより」、HP等による情報発信に努め、保護者や地域への周知を図る。	【達成状況】 保護者の肯定的回答が 75.0%であり、目標値を下回った。 ①感染症対策を行いながら、中学生の職場体験学習や、中学校教員による乗り入れ授業を再開したり、地域学校園の交流活動やあいさつ運動、研修等を行ったりすることができた。 ②関係行事を予定通り実施するとともに、学校だより等により情報発信を行ったが、十分な情報を提供できなかった。 【次年度の方針】 ・小中一貫教育の取組について、趣旨の明確化を図り、地域学校園で協力し合いながら現在の状況の中でできることを確実に行うとともに、できる限りの情報発信に努め、保護者や地域へ

	A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」→地域肯定的回答 80%以上	①街の先生及び学校支援ボランティアと連携した授業や活動を教育課程に位置付けて実践する。 ②昨年度の取組・課題を生かし、岡本小地域協議会を核にした教育活動支援の円滑な実施と有効活用に努め、学校運営の充実を図るとともに、地域や保護者への情報発信に心がける。	の周知を図る。 【達成状況】 地域の肯定的回答は 88.2%であり、目標値は上回ったものの市の平均値よりも下回った。 ①学校支援ボランティアと連携した学習や企業等による出前授業を可能な限り計画的に実践した。 ②岡本小地域協議会を開催し、情報共有・連携・協働に努めた。 【次年度の方針】 ・地域協議会との連携・協働による、地域人材や保護者、企業等を活用した特色ある教育活動を推進するとともに、取組については、地域や保護者への積極的な情報発信に努める。
	A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」→地域肯定的回答 80%以上	①校外学習計画の見直しに伴い、学校支援ボランティアと連携した授業や活動の見直しをしながら実践する。 ②地域協議会等やHPを活用してより一層地域や保護者への啓発活動を広げている。	【達成状況】 地域の肯定的回答は 88.2%であり、目標値は上回ったものの市の平均値を下回った。 ①学校支援ボランティアと連携した学習や企業等による出前授業を可能な限り計画的に実践した。 ②岡本小地域協議会を開催し、情報共有・連携・協働に努めた。 【次年度の方針】 ・地域協議会との連携・協働による、地域人材や保護者、企業等を活用した特色ある教育活動を推進する。また、会議運営の工夫改善等による地域や保護者の学校運営への参加促進を図り、よりよい児童の育成に努める。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」→保護者肯定的回答 80%以上	①保護者や学校施設利用者へ災害時避難方法や児童送迎時の自家用車乗り入れ方法の周知、AED講習の案内など、危機対応に関する情報を提供する。 ②全教職員による毎月の安全点検を行い、児童や利用者が安全に活動できる環境づくりに取り組む。	【達成状況】 保護者肯定的割合 89.6%であり、目標値は上回った。 ①災害時の児童引渡しに関する送迎ルートを工夫改善し、訓練に取り入れたり、不審者に対する避難訓練を実施したり、保護者に来校時の自家用車の乗入方法や駐車場から校舎への徒歩経路を周知したりするなど、児童の安全確保に努めることができた。 ②安全点検結果に対しては、学校業務嘱託員や機動班等と連携しながら速やかに対処することで、安全な環境づくりに努めることができた。 【次年度の方針】 ・AED講習会については、学校支援ボランティア等にも参加希望を募るなどしながら、引き続き、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努める。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケート「パソコンや図書等を学習に活用している」→児童肯定的回答 80%以上	①情報教育担当や司書が学級担任と連携し、ICT機器、学校図書館図書、市立図書館の巡回図書等の活用を図る。 ②読み聞かせや図書などによる啓発など学校図書館を核とした読書活動を推進する。 ③ICTや図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。さらに1人1台端末導入を機に、その特性を各教科等の学習に生かす。	【達成状況】 児童の肯定的回答は、89.5%で目標値を大きく上回った。 ①1人1台端末の活用は全学年積極的に取り組めた。また、巡回図書の活用もできた。 ②図書等や図書委員会の動画を利用した本の紹介など、イベント等を通し、子供たちの読書意欲を高めるように計画的な啓発を行った。 ③各学年の実態に応じ、日常的に有効活用することができた。また、ICT 機器に偏ることなく、図書資料も意図的に取り入れた。 【次年度の方針】 ・ICT や図書資料を意図的に取り入れ、分かりやすい授業の展開を心がける。1人1台端末を効果的に活用したり、図書資料を適切に選択して提示したりするなど、各教科等の学習に生かせるようにする。
本校の特色・課題等	B1 すべての学習活動を通して、児童の積極性を育てる。 【数値指標】全体アンケート「学習や生活に積極的に参加できた」(1～4年)「学習や生活に責任をもって取り組むことができた」(5・6年)→児童肯定的回答 85%以上	①学校全体の活動において、各学年の発達段階に応じて、児童の自己有用感が高められるような活動の充実と改善を図る。 ②児童会活動等の運営に全学年が参画し、高学年がリーダーとして主体的に活動できるよう指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答が 95.1%であり、目標値を上回ったものの、保護者の肯定的回答率は昨年度を下回った。 ①各種委員会活動等の提案に対して多くの児童が目的に賛同し、活動の活性化が図れた。 ②児童会活動を児童が中心になって企画・運営することで、積極性・協調性が高まった。 【次年度の方針】 ・本校の実態に応じて児童会活動等を改善・充実させ、学校及び学年学級の活性化や、高学年のリーダーとしての資質を高める場を充実させるとともに、情報発信を積極的に行い、保護者の理解を得られるように努めていく。

B2 児童が主体的に活動できる異学年交流活動の実施などにより、児童には自己有用感や協調性、思いやりの心が育まれている。 【数値指標】全体アンケート「児童には、自己有用感や協調性、思いやりの心が育まれている」→教職員肯定的回答85%以上	①児童が主体的に活動できる異学年交流活動を実施し、集団の一員であることの自覚や自尊心を高めるとともに、コミュニケーション力や思いやりの心を育む。 ②認め励ます指導により、自信や自己有用感を育む。 ③「岡小タイム」を位置づけ、学級の時間や縦割り班活動を実施する。	【達成状況】 教職員の肯定的回答率は100%で目標値を大きく上回った。 ①学校公開日に、感染症及び熱中症対策を講じながら、各学年ブロックの高学年が主体となって企画・運営をする「異学年交流会」を実施することができ、児童がそれぞれの立場で活躍する姿が見られた。 ②学校全体で、日頃から児童の小さな努力の積み重ねや、成長などを積極的に認め励ますことにより、自他を大切にした言動や、望ましい行動をとることができる児童が増えた。 ③ロング昼休み「岡小タイム」を週に2回位置づけ、学級や縦割り班で共遊する時間の確保に努めた。 B 【次年度の方針】 ・次年度も、異学年交流はもとより、学校行事や体験活動等を通し、集団の中で切磋琢磨する体験や、困難を乗り越える体験を積み重ね、自己有用感や思いやりの心、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいく態度の育成に努める。
---	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【全体的な傾向】

27ある全質問項目中の96%にあたる26項目において、目標値を上回った。また、そのうちの15項目において、昨年度の肯定的回答率と比較して同等もしくは上昇という結果となった。コロナ禍での教育活動も3年目となり、感染症対策を講じながらも、それぞれの活動を充実させようと、保護者や地域の皆様の温かな御支援のもと、教職員が一丸となり、趣向を凝らして行事等を実施したり、児童一人一人のよさを認め励ましたり、きめ細かに学習指導や児童指導にあたりたりした結果と捉えている。

一方で、A21「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」については、目標値を下回った。以下に、今後の方向性等について示す。

【目指す児童像(評価項目:A1～12)】

A1～A12の項目すべてにおいて、目標値を上回った。特に、A8「児童は、英語を使ってコミュニケーションをしている」における児童の肯定的回答率は、昨年度と比較して4.2ポイント上昇した。今後も、ALTを活用するなどしながら、外国語及び外国語活動の時間はもとより、昼休みや清掃の時間など、日常的に児童が生きた英語に触れる機会を充実させることにより、グローバル社会に主体的に向き合うことのできる児童の育成を目指す。

一方で、A1「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」、A4「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」、A5「児童は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」の項目において、教職員の評価が昨年度に比べて大きく下降した。このことは、児童が日常的にあいさつはできるようになってきているものの、「自分から」「誰に対しても」などの点で課題が見られることや、素直に学習に取り組む姿は見られるが、主体的に工夫して学習に取り組んだり、「聞く時間」と「話す時間」を区別したりすることに課題が見られることによるものである。今後も、あいさつを含めた日常生活の言葉遣いや学習に向かう態度について定着を図れるよう、家庭や地域と連携・協力するとともに、教科の学習活動や縦割り班活動などの児童会活動の工夫・改善に努める。

A9「児童は、宇都宮の良さを知っている」における保護者の肯定的回答率は、67.3%と全17項目中最も低い結果となった。今年度も、生活科や総合的な学習の時間において、地域や保護者の方々の御支援・御協力のもと、岡本地区や宇都宮市の自然や歴史について学ぶ校外学習・体験学習を実施したが、その成果が保護者へ伝わるまでには至っていないと思われる。今後も市作成教材等を活用し、校外学習・体験学習の充実に努めるとともに、それらの取組を、各種便り等に掲載することにより、児童や保護者が地域のよさを実感できるよう努める。

また、A10「児童はICT機器や図書等を学習に活用している」における児童の肯定的回答率は、目標値を上回ってはいるものの、昨年度と比較して7.1ポイント下回った。昨年度は、1人1台端末導入1年目であり、児童がそれぞれの発達段階に応じ、その使い方に慣れることを第一の目的として、積極的に活用したが、今年度においては、各教科等の学習の特色に応じて効果的に活用することに主眼を置いて活用したことが、その要因であると考えられる。今後も1人1台端末や図書等の効果的な活用について学校全体で追及し、各教科等の学習に生かす。

【目指す学校の姿(評価項目:A13～25)】

全13項目中の85%にあたる11項目において、目標値を上回った。特に、A19「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」における教職員の肯定的回答率は、昨年度と比較して13.1ポイントと大きく上昇した。今後も日頃の教育活動全般において、教職員と関係する学校スタッフが相互に協力し合い、連携を図りながら、児童への指導・支援の充実に努める。

また、A18「教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている」における保護者の肯定的回答率は、昨年度の肯定的回答率を5.2ポイントと大きく上回り、90.8%であった。今後も教職員それぞれが

教材研究を十分に行うとともに、かがやきルーム指導員等と連携しながら、児童の実態に応じた分かる授業の展開及びきめ細かな指導の充実に努める。

○一方で、A21「学校は『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」の項目において、目標値を下回った。A21については、昨年度は、感染症対策の影響から、ほとんどの活動の実施が見送られたが、今年度は、中学生の職場体験活動や、中学校教員による乗り入れ授業、本校児童と中学生とのあいさつ運動や交流活動等、内容を工夫しながら実施することができた。今後は、これらの取組を各種便り等で積極的に情報発信することにより、保護者及び地域に対する理解の促進に努める。

【本校の特色・課題等(評価項目:B1・B2)】

B1「すべての学習活動を通して、児童の積極性を育てている」における児童の肯定的回答率は、95.1ポイントと、目標値を10.1ポイント上回った。また、B2「児童が主体的に活動できる異学年交流活動の実施などにより、児童には自己有用感や協調性、思いやりの心が育まれている」は、今年度新たに設定した項目であるが、教職員の肯定的回答率は目標値を大きく上回り、100%であった。今後も、全児童が参画し、高学年児童が中心となって企画・運営にあたる児童会活動や、異学年交流活動等を充実させるとともに、認め励ます教育をより一層推進することにより、児童の積極性や自己有用感、協調性や思いやりの心はもとより、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいく態度の育成に努める。

7 学校関係者評価

7 学校関係者評価

地域住民による評価結果としては、全11項目全てにおいて、昨年度の肯定的回答率と比較して同等もしくは上昇という結果をいただくことができた。

地域協議会においては、昨年度と比較して、肯定的回答率に5ポイント以上の差が見られた項目を中心に、評価の総括を行った。

委員からは、「小中一貫教育・地域学校園」の取組として、中学生の職場体験活動や、中学校教員による乗り入れ授業、児童と中学生との交流活動等、様々な取組が行われていることを初めて知った。そのような取組を地域の方々に知っていただくとうい。協議会からも、学校の取組をまちの情報誌等に掲載してもらえよう、働きかけたい。といった御意見をいただいた。

今後も「小中一貫教育・地域学校園」に係る取組や、岡本地区の自然、文化、伝統などの教育資源及び地域の教育力を生かした活動を推進するとともに、それらの取組については、各種便り等への掲載に加え、地域協議委員のお力をお借りするなどしながら、広く情報発信し、保護者及び地域に対する理解の促進に努める。

8 まとめと次年度へ向けて(学校関係者評価を受けて)

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける

全体としてよい評価をいただいたが、学校の自己評価や児童・保護者・地域の皆様から寄せられた貴重な意見を真摯に受け止め、次年度の方策について具体的に検討していきたい。

・学級経営を基盤とし、地域学校園で設定した「授業のやくそく」をもとに、学校全体で話をしっかりと聞いたり、自分の考えや意見を理由などを含めて発表したりできるよう指導することにより、「学びに向かう集団づくり」をより一層推進する。

・児童の小さな努力の積み重ねや、校内での善行、地域等での活躍などを積極的に認め励ますことにより、児童の自信や自己有用感を育むとともに、運動会などの学校行事や、出前授業・校外学習などの体験活動を充実させることにより、夢や希望を持ち、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいく態度の育成に努める。

・各教科等における ICT 機器や図書等の効果的な活用について、教職員それぞれが自己研鑽に努めることにより、授業力の向上を図るとともに、児童の実態に応じた分かる授業の展開及びきめ細かな指導の充実に努める。

○「時と場に応じたあいさつ」については、家族的な雰囲気にあふれ児童同士や児童と教職員等との距離が近い本校においては、「正しい言葉遣い」とともに課題があることから、学校・家庭・地域・地域学校園が連携し、気持ちのよいあいさつや正しい言葉遣いのできる児童の育成を目指し、各教科等における学習活動はもとより、学校行事や児童会活動等を通して、学校全体で共通実践に努める。

・市作成教材等を活用し、校外学習・体験学習の充実を図るとともに、それらの取組を、各種便り等に掲載することにより、児童や保護者が地域のよさを実感できるよう努める。

・「いじめの未然防止」や「いじめに対する指導」については、今後も全教職員で取り組む。特に、1人1台端末が配備されたことにより、インターネットによるいじめが起こることも想定されることから、どんな形であっても、いじめは許され

ない行為であることはもとより、一人一人の人権を大切にすることの大切さ等を丁寧に指導していくことを通して、すべての児童が安全に、楽しく学校生活を送ることができる環境づくりに努める。

○河内地域学校園において、より一層連携しながら、コロナ禍にあってもできる活動を積極的に検討し合い、可能な限り交流活動等を実施するとともに、それらの取組を各種便り等で積極的に情報発信することにより、保護者及び地域に対する「小中一貫教育・地域学校園」の取組への理解促進に努める。

・岡本地域協議会を要として、地域協議委員や学校支援ボランティア等の御支援・御協力による教育活動の充実に努め、地域とともにある学校づくりを推進する。